

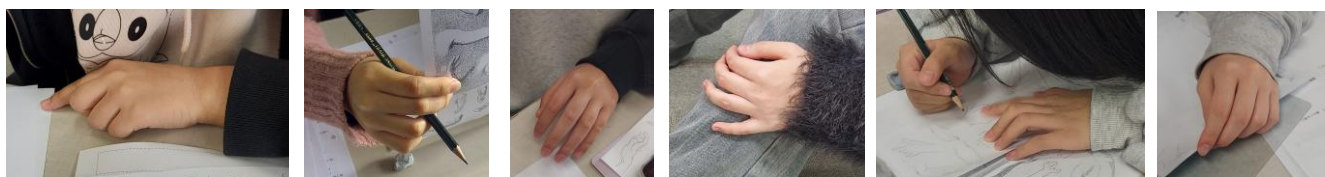


○ 表情

ほとんどの人が中学校あたりの美術の授業で自分の手をスケッチした経験があるのではないのでしょうか？非常に複雑な形・動きをする物体ですから観察にあたってはいろいろなコツが必要です。そのことで観察力や描写力が向上しますのでモチーフとしてよくつかわれます。

このたびペット総合学科で手のスケッチ（デッサン、ドローイング、クロッキーなどの表現をすることがあります）をしました。コツとして伝えたのはおもに動き（ムーブマン）、かたまり（マッス）、そして表情の観察です。カタカナ表現は美術を学ぶときによく遣われることばです。方法は自分の手を観察する、友人の手をモチーフにする、スマホで撮影して観察する、撮影したものをプリントアウトして升目デッサンをするなど、さまざまな方法を提案しました。方法によって描写にける時間は変わってきます。○秒、○分などと短時間で特徴をとらえて描くことをクロッキー、少し時間をかけて描くことをスケッチ、じっくり時間をかけて描くことをデッサンまたはドローイングなどと使い分けます。厳密な分け方ではありませんが。似たようなことばの違いについても伝えてみました。

自分の手でなく友人の手をモチーフにするというのには理由があります。自分の手では見えない角度があるからです。自分の手の見えない角度の表情を見せるため、私は授業中にたくさんの学生の手を撮影しました。それが下の写真です。色々な表情があっっておもしろいですね。



彼女たちはトリミングの作業をするので不必要に爪を伸ばしたり、ペインティングもしていません。飾り気は特にありませんが、私のようなおじいちゃんの手と比べるとはるかに美しいですね。そのことにも気づいてくれたでしょうか？おじいちゃんの手には年輪という美もありますが。



冬季オリンピックも近くなり、フィギュアスケートの競技もよく見かけるようになりました。指先までの動きも採点の大切な要素のようです。手の表情というのは不思議なものですね。

○ 自校自賛

KC 校で、ある日検食のため実習担当教員が現物とこのイラストを持ってきました。「次回のカフェの“これ”です。」とのこと。現物もおいしそうでしたが、私はこのイラストが気になりました。すると「私が描きました。」とのこと。彼女は私の授業を受けてみたいとも言っていますが、受けなくても十分上手と伝えました。でも機会があればそういう場を設定するのもいいかもしれませんね。

実物の色彩はもう少し鮮やかです。

